

1 学校教育目標
一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行い、将来の自立と社会参加をめざして主体的に学び、取り組む児童生徒を育成する。

2 本年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ○安全安心な教育環境づくり ○一人一人の自己肯定感を高める指導・支援の充実 ○職員の専門性の向上及び組織的な連携力の強化 ○保護者や関係機関との連携・支援の充実 ○卒業後の実生活を見据えたキャリア発達支援 ○共生社会の形成に向けた取組充実

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校教育目標・重点目標の具現化に向けた校務推進	重点目標を学んだ項目を踏まえて、学校評価に基づき、各分掌部の充実	重点目標の達成に向け、学校評価項目の具体的目標を常に意識し、PDCAサイクルを徹底し、各分掌部が連携を取りながら、教育活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・面談等を通し、それぞれが重点目標を踏まえた目標設定になっているか確認する。 ・それぞれが前期の取組状況（成果と課題）振り返り、後期における改善点等を明確にし、各分掌部の連携も意識して、後期の取組等につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・面談の際に、日ごろの教育活動を振り返り学校教育目標を意識して具体的目標設定できているか確認を行った。 ・各分掌部で前期の取組状況など振り返り、後期の取組を見直し、分掌部間の連携をより図ることで、学校の教育目標を意識した取組につなげることができた。
	働き方改革の推進	勤務時間の適正管理・教職員の意識改革	職員の時間在校等時間が45時間以内となる職員の割合が85%を超える。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の衛生委員会において時間外従事時間の状況を把握、共有し、業務配分等の見直しや、平準化を進め正規の勤務時間外従事を軽減する。 ・毎週設定している18時退勤等日ごろから声掛けを行うことで職員が自分自身のタイムマネジメントを意識するように促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会において時間外勤務状況を共有しながら、健康管理や職場環境の整備を行い、全体的な業務の平準化が進んでいる。目標数値もほぼ達成できた。 ・業務改善策を定期的に職員へ周知し、個々のタイムマネジメント意識も高めることができた。金曜日18時退勤についても定着してきた。

授業の充実	一人一人の教育的ニーズに応える指導・支援の充実	子どもの発達、学びに寄り添った自立活動の充実	指導計画の作成と授業実践及び改善	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の個別の指導計画を作成し、生徒の中心課題と自立活動の目標についてクラスやグループで共有し、授業計画、実践を行う。 ・担任全員が年に1回の略案作成と授業を行い、チーム研で意見交換や振り返りを行うことで、授業改善へとつなげる。 ・代表事例を選出し、自立活動の研究授業と授業研究会を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画については、夏季休業中に作成や見直しを行うことができた。作成者と授業者が違う学部があるため、目標や授業内容を共有する時間を設ける必要があった。一部の学部で実施し、有効であった。 ・学部研を縦割りで行い、自立活動の一人一事例の実践とその振り返りを行った。意見交換や振り返りの時間に悩みや困りを出し合い、日頃の授業改善へとつなげることができた。 ・代表事例の授業研究会では、協議の柱についてグループで協議を行ったことで、先生方一人一人が意見を出し、活発な意見交換、協議を行うことができた。
			特別支援教育に関する専門性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動や普段の授業実践に関する講師招聘研修を年に3回実施する。 ・主に新任者を中心とした自立活動に関する校内研修を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に講師招聘研修を実施した。当初3回を予定していたが、研修の精選という視点から2回の実施となった。 ・教務部と連携し、新任者を中心に自立活動と個別の指導計画の作成に関する研修を実施した。特別支援教育に初めて携わる先生方に、今後も実施していきたい。
キャリア教育（進路指導）	卒業後の実生活を見据えたキャリア発達支援	卒業後の視点を大切にした教育活動の充実	卒業後の意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の進路先や現場実習先から挙げた課題等をまとめ、周知する。 ・授業や進路だよりの中で、児童生徒、保護者へ挨拶とお手伝いの重要性について発信する。 ・長期休暇中に全学部において「お手伝い日記」の取組を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生のフォローアップ調査や現場実習先から挙げた課題等をまとめ、高等部職員で回覧した。 ・授業や進路だよりの中で、挨拶とお手伝いの重要性について取り上げた。夏休みと冬休みに学校全体で「お手伝い日記」の取組を行った。

		進路面談と情報提供の充実	新制度「就労支援」をすすめるための門と保護に思った提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路だよりを6回発行し、障害福祉サービス制度や保護者から挙げた質問、資料提供について取り上げる。 講師招聘進路研修会を実施する。 保護者向け進路研修会を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1月末現在、進路だより5回発行し、3月に発行を予定している。 保護者から要望が挙げた障害基礎年金について「親のつどい」で学習会を行った。 夏季休業中に卒業後の障害福祉サービス利用について講師招聘進路研修会を行った。 中学部保護者に向けた進路研修を2月に実施予定である。 進路だよりは、2カ月に1回程度の発行であるため、最新の内容を発信することが難しい。
		卒業生のアフターフォローの充実	職場の向上を指した部内関係機関との連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の様子や課題について進路先や関係機関と情報共有し、学校の役割を確認しながら課題解決に向けて支援する。 学部会等の機会に卒業生の状況について発信し必要な情報を収集して早目の対応を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> R6年度卒業生（A型就労）1名が夏頃欠勤が続いたことがあったが、進路先事業所と連絡を取りながらケース会議を実施するなどし、出勤を再開することができた。また1名A型利用卒業生の事業所変更があった。 高等部会で、把握している卒業生の状況について資料に掲載して発信を行ったが、説明等は十分にできなかった。
生徒（生活）指導	他者との関わりをもった生活の楽しさを味わう	生徒会活動の充実	生徒会が中心となつた生徒活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会等の内容を年度初めに周知し、児童生徒が主体的に活動した取組の発表の場となるようにする。 毎月、全校朝会で学校生活目標の呼びかけや各学部の取組を周知することで、学部間で連携しながら児童生徒が見通しをもって活動に取り組めるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会の計画を立て事前に周知することで、児童生徒が主体的に発表できる場となった。 生徒会で協力して毎月の生活目標の制作に取り組むことができた。全校朝会后に、生活目標を各教室に配布し、意識できるようにした。昇降口前で、あいさつ運動を実施し、気持ちよいあいさつを交わすことができた。
		生徒指導内容の共通理解	生徒心得（中学部・高等部）の周知や徹底	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に生徒心得について説明したり、各教室への掲示や生徒手帳で携帯したりする。 学部会や朝会、分掌部会で児童生徒の様子について共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に生徒心得について生徒に周知した。中学部では、分かりやすいようイラスト等で示したものを教室に掲示し、周知することができた。 分掌部会では学部を超えて生徒の情報共有の時間を確保するのが難しかった。

	安全安心な通学	安全安心な自力通学	自力通学生への通学指導や通学ルールの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に通学指導を行い、自力通学生を招集し通学状況の確認や指導に努める。 事故の被害や加害にあった場合等を想定し具体的対処法に関する指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定例通学指導や状況に応じて自力通学生徒への交通ルールの遵守、指導等行うことができた。 定例通学指導においては、現状指導に立っていない状況もみられることから、全学部の職員で実施し、指導場所、指導回数等の検討を行う。
人権教育の推進	命を大切に する教育の 充実	「生命を大切に する教育の 充実」を育む 日々の指導 支援	生命のすばらしさ や尊さを 知り、生命 を大切に する取組の 充実	<ul style="list-style-type: none"> 「いのちを大切に する週間」を 設定し、各学部 ・学年・学級毎 に児童生徒の実 態に応じた授業 を実践する。 校長による、命（ いのち）に関す る講話を実施す る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いのちを大切にする週 間においては「命の大 切さ」に焦点を当て て各学部やグループ毎 に特設した授業を実 施することができた。 「人権週間」での動画 の視聴や「人権集会」 を通して、自分や他者 を大切にする心情を 育むことができた。
	人権教育に 関する職員 研修の充実	人権問題の 基本的認識 と実践的指 導力の向上	校内研修 の複数回 実施による 人権意識 の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全体研修を3回 （講師招聘研修 含む）、グルー プ別研修を2回実 施し、法令等 に関する共通理 解を図り、児童 生徒の人権を尊 重したかわり方 等についての指 導・支援につ いて検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全体研修では①人権教 育の目標や年間計 画、安心・安全な 学校づくりに関 する共通理解を 図った。②いのち の日の研修では、 児童生徒の安全 を守るための講 話といじめ対応 についての講話 を聞いた。③招 聘研修では障が い者の権利に関 する理解を深め た。 7月、12月の2回 グループ研修で は、人権尊重の 視点に立った授 業づくりのポ イントを学び、 実践の充実につ なげることがで きた。また、児 童生徒一人一人 の人権を尊重し た関わりや教育 実践ができている かを振り返った。
いじめの防止等	いじめ防止 対策の充実	毎学期の対 策委員会の 研修や周知 の実施	各委員会及 び校内職員の 研修事例等 の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ防止対 策委員会」を年 3回実施し、取 組の評価や見直 しを行うととも に、委員会の内 容を全職員に周 知する。また、 職員研修でアン ケート集計結果 や事例、共通し た入力シートを 使い共通理解を 図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止等対策委 員会を年に3回 実施している。 事前に、校内で いじめについて 検討した後、外 部専門家から本 校の取組につ いて指導助言を 受け、いじめの 解消に向けて 丁寧に取り組む ことができた。 職員研修でも いじめ防止につ いて周知し、組 織で対応するこ うすることがで きた。

		全児童生徒の思いと現状の把握	「いじめを許さない」「いじめを見逃さない」「相談できる」学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活アンケート」「心のアンケート」を実施し、児童生徒の実態把握に努め、気になる回答は個別面談等を通して丁寧な指導支援に努める。 ・職員の入力シートを準備しいじめ事案と考えられる気づき等を共有し、現状把握に努める。 ・人権教育やいのちの授業を通して、自分や他者を大切にするとともに「一人で抱え込まない」相談できる関係性づくりに各職員で日々努めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの記入が難しい児童生徒は、面談等や保護者へのアンケートを実施し、気になる様子等保護者から聞き取ることができた。保護者と共通理解を図り、児童生徒の様子を知ることができた。 ・アンケートを定期的実施することで職員もアンテナを高く張り、生徒もいじめについて意識が高くなりつつある。
センター的機能と段階的支援体制	地域支援の充実	担当エリアの小学校・中学校・高等学校等への支援	巡回相談及び校内研修等の協力	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容について児童生徒の観察をし、要因や背景、教育的ニーズに応じた最適な支援について検討したり助言をしたりする。 ・阿蘇郡市特別支援学級担当者の指導力向上研修に協力する。 ・翔陽高校の「通級による指導」のサポートを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担当5町村の保小中高の巡回相談に応じた。(12月現在103件)UDの視点での授業作りや個別の配慮や支援を助言した。研修依頼では5件の講話を行った。中学校の公開授業研究会「生活単元学習」で助言を行った。 ・指導力向上研修では8月に新任担当者研修(14人)、10月にコアティーチャー研修(1人)を行った。 ・翔陽高校の「通級による指導」に係る生徒のケース会議や巡回相談に行った。個別的教育支援計画や個別の指導計画の助言を行った。
		適切な学びの場に向けた教育相談の充実	相談者のニーズに応じた教育相談の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで教育相談の目的や手続き等を周知する。 ・就学に関するこれまでのプロセスや巡回相談の活用状況等を事前に確認する。 ・教育相談の際には、実態の聞き取りを行い本校の教育課程等を説明する。相談記録を教育支援部長・CO・管理職で供覧する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部主事が相談に応じた。幼児児童生徒の実態を聞き取るとともに、本校の教育課程の説明、学習や生活の様子について校内の見学、通学方法の確認等を行った。学部主事の教育相談の記録は、教育支援部部長、CO、管理職で供覧をした。(12月現在小学部28件、中学部25件、高等部83件)

	校内支援の充実	特別な教育支援を必要とする児童生徒への支援の充実	関係機関と連携した支援	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的な支援体制を構築しながら、必要に応じて積極的にケース会議等を実施する。その際、学部・学校全体で情報共有を図る。 ・夏季休業中に学園訪問を実施し施設入所生の情報を共有する。その際、関係機関との連携窓口は一本化する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや担任のニーズに応じて、共通理解を図ったり、ケース会議等を実施したりすることができた。また、ケースに応じ、外部機関も交えたケース会議を開催する等迅速に対応することができた。必要に応じて、学部・全体での情報共有を行うことができた。 ・学園訪問では、学園の概要を聞き、子どもたちの生活の場を直接見たりすることができ、学園と情報を共有することができた。
			一人の子どもを多くで検討する事例の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討シートを活用して事例検討を行う。学部裁量の時間等を活用して、子どもの支援で困っていること等を学部内で検討し、共通理解を図る事例検討を実施する。 ・校内研修を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの支援について事例検討シートを活用し事例検討を行った学部もあったが、情報共有にとどまる学部もあった。校内支援委員会では事例検討シートを活用することができた。 ・子どもの行動の捉え方や課題分析についての研修を行うことができた。
地域連携(コミュニティスクールなど)	総合型コミュニティスクールの推進	地域との連携	保護者や地域の方々(行政、福祉、教育の各機関)との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営について、就労関係機関の委員も招聘をし、進路指導も含めた幅広い視点で協議を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会を3回実施し、本校教育活動について説明した。生徒の取組の一つとしてジュニアリーダー夢議会での生徒会からの提案等を第2回運営協議会で紹介し、行政や福祉等様々な立場から御意見や感想をもらった。
教育の情報化	ICT活用推進	iPad及び電子黒板を用いた授業の活性化	セキュリティー配慮しながら、ウェブ上の共有資料を取り出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育の年間指導計画を精査し、情報教育における課題に関連する資料・情報を共有すると共に、授業実践の好事例を共有する。 ・プログラミング教育や情報モラル等に係る指導内容及び学習活動を年度末までに整理し新年度初めのICT研修会で周知する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めのICT研修で、情報教育の年間計画についての説明を行い、特にプログラミング教育については、実践事例を挙げ、全体で共有をした。また、ICTを活用した実践事例について、小学部・高等部から2事例挙げ、共有した。 ・情報モラルについては高等部を中心にSNSの取り扱いについて等、プリントを配布したり、掲示したりして啓発に取り組んだ。

	校務の効率化	統計データに基づく所要時間の短縮が見込める業務に係るツールの開発	授業準備及び授業改善、事務活動による報及制を準備する。	<ul style="list-style-type: none"> 他分掌部との意見交換等を通して連携を図り、校務の効率化の図ることのできるツールを作成する。 iPadOSで作成した教材を共有するデータベースの整理とデータ検索のためのマニュアルの作成に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教務部の教科書選定における二重供給を防止するために、二重供給されている教科書は赤字で表示されるツールを作成した。 iPadOSで作成した教材を共有し検索するためのマニュアルの作成については、今後iOSではなくなる可能性もあるため作成は中断し、iOSでも校務用パソコンでも、教材を閲覧することができるファイルの作成に取り組んだ。
環境教育	「花とみどりの美しい学校づくり」の推進	環境美化活動の推進	児童生徒や職員による環境整備への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒による清掃活動に毎日取り組む。 児童生徒と季節に応じて花壇に花苗等を植える。 月1回の職員掃除と職員作業、安全点検を計画的に実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学部、児童生徒の実態に応じて毎日掃除に取り組むことができた。 高等部園芸班を中心に花壇の整備を行うことができた。 日々の掃除では取り組むことができない場所を中心に、職員で掃除や除草作業を行うことができた。
		学校版ISOの周知と日常的な取り組み	ゴミの分別や節水、節電等、環境にやさしい取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や各学部でポスターを作成・掲示し、児童生徒へ「節水・節電・ゴミの削減」を呼びかける。 職員の個人ゴミの持ち帰りを推進する。 ゴミの分別のためにゴミ箱に分別表を掲示する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小学部は各クラスで環境教育を行ったり中学部・高等部は節水、節電に関するポスター等を作成したりした。 昨年度から継続して職員室のゴミをは可燃のみとしたことで持ち帰りが促進できた。 職員連絡会や学部会等でゴミの分別を確認することで、分別の意識を高めることができた。

4 学校関係者評価

※外部関係者（学校運営協議会委員）による意見等

- ・近隣校との交流学习について、快く対応いただき感謝している。
- ・毎回、学校見学をさせていただくが、生徒の発達段階に合わせた教材が新たに開発され、活用されており、とても勉強になる。
- ・地域（大津町）のイベントにも大変協力的である。
- ・既に取り組まれているかも知れないが、SNSトラブルについては学習の機会があると思うが犯罪に巻き込まれないための教育指導も是非お願いしたい。
- ・学園内で生活している総員で誰でも簡単に出来る共通の目標を掲げ、全員で共有し、目標達成のため皆で実践する運動をやってみてはどうか。無事に終えた時、仲間同士で達成した充実感や満足度、喜びはきっと心の中に貯金として一生残るものと確信している。
- ・今後とも継続した指導をお願いしたい。
- ・様々な学校行事に参加させていただき、一番印象に残ったのが、先日行われた大新年会である。式典の後のレクリエーションに参加して、二十歳を迎えられた卒業生の皆さんが、先生方の演奏に合わせて歌って楽しんでいる姿を見て、改めていい学校だなと心から思った。

5 総合評価

<学校教育目標について>

各学部の実態に応じ、将来の自立と社会参加を意識した学習活動を設定し、児童生徒一人一人のニーズに合わせた教育活動を実践することができた。スーパーティーチャー等の講師招聘研修やスキルアップ研修を通して、自立活動の実践に必要な基礎的な知識・理解を深め、教職員の専門性の向上を図ることにつなげることができた。

<本年度の重点目標について>

- ・校内の安全点検を定期的に行うとともに、学部会で児童生徒理解の時間を設けるだけでなく、ヒヤリハットの報告を全職員に行い、気になる行動が見られる児童生徒に関して全職員で共通理解を図るなど、職員間の連携を強化し、安全安心な教育環境づくりの構築に取り組んだ。
- ・講師招聘研修に加えて、各学部の枠を取り払い縦割りでグルーピングした学部研を通して、自立活動の一人一事例の実践とその振り返りを行った。児童生徒の実態が異なるが、意見交換や振り返りの時間に悩みや困りを出し合い、それぞれが実践している取組を共有することで、職員間の連携も深まり、日ごろの授業改善にも繋げることができた。
- ・卒業後を見据え、保護者のニーズに沿った情報提供や本校生徒の就労先の事業所の見学、外部講師による障害基礎年金についての学習会などを企画した。事業所や企業との交流を深め、地域と連携した教育活動の推進、卒業後の実生活を見据えたキャリア発達支援教育につなげた。

<自己評価総括に対する評価>

- ・各学部において、様々な校外学習を含め、近隣の学校との交流学习、事業所や施設等での学びの機会を設定し、地域とのつながりを意識した学習計画を実践した。特に、学校間交流では、お互いの学校を行き来し、一緒に合奏やモルックなど行い交流を図り、地域の祭りでは本校高等部の作業製品の展示をしたことで、本校の取り組みと生徒の日々の頑張りを多くの方に知っていただく機会にもなった。学校運営協議会での意見交換も含め、地域との連携を深め、本校教育活動を充実させることにもつながった。
- ・年3回の授業参観では、多くの保護者に児童生徒の学習活動の様子を実際に見ていただくとともに、面談や連絡帳を通じた情報共有を密に行うことで、学校と保護者が共通理解のもと、必要に応じて外部の専門機関も含め連携を図りながら学校の教育活動を進めることができた。
- ・学園訪問を実施し、児童生徒の生活背景を理解するとともに、学園との情報共有を密に行い、児童生徒や担任のニーズに応じて、共通理解を図るためケース会議等を実施してきた。必要に応じて外部機関も交えたケース会議を開催する等迅速に対応することで、児童生徒の実態や状況に応じた指導支援につなげることができた。
- ・職員の支援の在り方についても、学校全体で振り返りをする機会を設けて自分自身の支援の在り方、そして担任間や職員同士でも支援の在り方の振り返りや見直しをすることで、子どもたちの支援につなげることができた。

6 次年度への課題・改善方策

- ・児童生徒の安心安全な学習環境と社会の情勢を踏まえ、高等部に限定されたものであった情報モラルに関する周知や啓発について、個人で使用する事の出来る ICT 機器を持っている児童生徒の全てを対象とした情報モラル教育を推進していく。
- ・働き方改革として、業務量の平準化と併せて、定時退勤をしやすい金曜日に定時退勤日を設定し、管理職だけでなく、学部主事からも定時退勤の声掛けを行い定時退勤の徹底を図るとともに、日ごろから職員の抱える業務の把握に努め、職員に声をかける等の働きかけを行う。
- ・児童生徒の実態と教職員のニーズに応じた研究、研修を通して教職員の専門性の向上を図るとともに、児童生徒の支援については、各学部での事例検討や校内支援委員会をはじめ、教育支援部を中心に児童生徒の行動の捉え方、課題の整理の仕方、具体的支援方針の検討、適切な関わり方等について全職員で共通理解を図りながら教育活動を進めていく。